

評価対象	羅針盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①学校生活を通じて「自分は成長できている」と感じている生徒が90%以上である。 ②生徒会主催の学校行事に対して生徒の90%が満足している。	・生徒一人ひとりに寄り添い、授業、学校行事及び部活動を活性化することで「明るく楽しく元氣よく」学校生活を送り、将来の目標を明確にさせる。 ・学校行事について、計画から運営まで生徒が携わり協議意識を高めることで、学校への帰属意識を持たせる。	A	B	B	自分が成長できていると実感していると考えた生徒は第1回は92%から第2回は79%と減少した。一方、保護者は第1回、第2回ともに100%であった。今後は学校生活の楽しさを実感させ、学習意欲の向上と人間関係の育成を目指し、生徒の自己肯定感を高めていくための工夫が必要である。生徒会行事に満足している生徒は第1回は83%から第2回は92%と増加した。学校行事の内容を大幅に変更し、準備段階から学年を超えた生徒の交流を図り、深い学びになるように工夫した結果であると考ええる。	○事情のある生徒たちを受け入れ、その生徒たちの社会的自立に向けて、一人一人に丁寧な指導を行っている。
	2 生徒の教育再生の場として、学習の取り組み方や社会性を育てていますか。	③不登校等から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が95%以上である。	・不登校等で学習機会が不足した生徒に対し、登校しやすい環境を整え基礎学力を身に付けさせる。他者を思いやる態度を持たせ、良好な人間関係を構築できる社会性を身に付けさせる。	A	A	A	継続して登校できていると考えた生徒は第1回100%、第2回87%であった。ほとんどの生徒が学校に居場所を見つけている。保護者は第1回、第2回ともに100%であった。今後も退学者で出ないよう、生徒に寄り添いながら、粘り強さ・たくましさで育成していきたい。	○生徒の実態を踏まえた、分かりやすい授業の実践継続をお願いしたい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④生徒の実態を踏まえた学習指導に、生徒の95%以上が満足している。 ⑤授業中、説明する機会があると感じている生徒が80%以上である。	・生徒の習熟度や実情に応じた指導を心がけ、基礎学力向上を基本として学び直しや振り返りを行い、学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・教員相互の授業参観、授業研究を通して資質向上をめざすとともに、生徒中心の授業展開を工夫などを実践し、授業改善を行う。	B	B	B	個別指導を優先し、常に目の前の生徒に合わせた教材を作成して対応している。第1回100%、第2回84%の生徒が学習指導に満足と答えている。今後は基礎学力の定着や段階的な学習目標の達成で意欲の向上を図り、満足度を向上させたい。	○生徒の実態を踏まえた、分かりやすい授業の実践継続をお願いしたい。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥進路目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が80%以上である。 ⑦学習に対する達成感や満足感を持っている生徒が90%以上である。	・主体的、対話的な学習活動を実践し、社会との関わりの中で生徒が学び意義を実感できる授業展開を実践する。 ・3分野の基礎学力テストに対して目標を持たせ、その達成に向けた学習意欲を喚起する。	B	B	B	第1回71%、第2回75%の生徒が進路目標に向けて授業に取り組んでいると答えている。進路目標が定まっていない生徒が多く、勉強する意義を実感していない。教材の工夫により、社会への興味・関心を高め、生徒の社会的意識の向上を図りたい。	○生徒の実態を踏まえた、分かりやすい授業の実践継続をお願いしたい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧全生徒に関する情報交換を月2回実施している。	・全職員参加の生徒情報交換会で生徒情報を共有し、生徒への対応、指導方法について全職員で共通認識を持つ。また情報交換会以外でもほかに情報共有を共通する。	A	—	A	生徒情報交換会は予定通り実施できた。教職員が面談等を通して生徒の状況把握に努め、全教職員で全生徒の情報が共有できている。また、毎日の登校時指導では生徒の様子を観察し、些細な変化も見逃さず、始業前には教職員間で情報共有されている。小規模集団のメリットを活かし、教職員が生徒の現状を把握することで、有効な指導ができている。今後も問題を抱える生徒に対して、個々の背景や人間関係にも注視し、きめ細かい支援を行っている。	○定時制課程ならではの行事もあり、生徒同士の絆づくりに今後も期待したい。また、働きながら、学習をする学校生活の中にも、楽しみや潤いが生まれるような指導をお願いしたい。
		⑨登校時指導（挨拶指導、健康観察）を毎日実施している。	・毎日の登校時指導で生徒を出迎え、職員から挨拶や声かけを積極的に行い、生徒の健康観察や状態把握につとめる。	A	—	A	安全な登下校を心がけている生徒は第1回96%、第2回87%であった。保護者は第1回、第2回ともに100%であった。今年度の交通事故は原付バイク転倒の1件のみ。全生徒が安全意識を持ち通学している。自転車通学者のヘルム着用率上げていくことを今後の課題とする。	○生徒の実態を踏まえた、分かりやすい授業の実践継続をお願いしたい。
		⑩他の通学者への配慮も含めて安全な登下校を心がけている生徒が100%である。	・下校時刻が遅いため、安全に帰宅するよう年間を通して生徒へ注意喚起する。 ・原付、自動車通学者はルールを確認した上で許可証を発行し、法令遵守、安全運転での登下校を指導する。	A	B	B	第1回87%、第2回79%の生徒が生徒会活動や部活動に満足していると回答している。より活力あるものとするためには生徒の主体的な活動が必要となる。形態や内容を見直しながら、全生徒が楽しく参加できる学校行事を工夫したい。	○いじめ防止対策は適切に行われていると思われる。
		⑪「生徒会活動や部活動が充実している」と評価している生徒が90%以上である。	・生徒全員が生徒会行事や部活動に積極的に参加できる環境を整え、主体性の育成とともに、良好な人間関係を構築できるような指導する。	A	B	B	第1回88%、第2回75%の生徒が学校はいじめ防止にとりくんでいると答えている。保護者は第1回、第2回ともに100%であった。学校の取り組みに対して生徒の認知度が低い。今後も未然防止、早期発見、解消に向けて全職員共通の考えを持つて臨み、組織的にいじめ防止に取り組んでいく。	○いじめ防止対策は適切に行われていると思われる。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると認識している生徒が100%である。	⑫学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると認識している生徒が100%である。	・日頃から生徒の様子を全職員で観察し、生徒情報を共有した上で適切に対応し、いじめの防止、早期発見につとめる。また、定期的に生徒へのアンケート調査を行い、生徒の訴えを見逃さず全職員で協議して対応する。	A	B	B	第1回88%、第2回75%の生徒が学校はいじめ防止にとりくんでいると答えている。保護者は第1回、第2回ともに100%であった。学校の取り組みに対して生徒の認知度が低い。今後も未然防止、早期発見、解消に向けて全職員共通の考えを持つて臨み、組織的にいじめ防止に取り組んでいく。	○いじめ防止対策は適切に行われていると思われる。
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬欠席状況が20日未満である生徒の割合が80%以上である。 ⑭交友関係がうまくいっていると感じている生徒が80%以上である。	・家庭との連絡を密に取り協力を求めるとともに、個に応じた教育相談を実践し、学校中心の生活を指導していく。 ・学校行事や部活動の主体的な活動の中で、生徒間の活発な交流を図る。	C	C	C	第1回79%、第2回75%の生徒が交友関係がうまくいっていると実感していると考えている。学校行事や部活動の主体的な活動の中で、さらに生徒間の活発な交流を図りたい。	○担任面談などの個別指導を今後も期待したい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑮進路に関する情報を自ら得ようとしている生徒が80%以上である。	・キャリア教育セミナーの充実を図るとともに、生徒の多様な進路やニーズに対応できるよう情報の収集と提供を行う。 ・『進路適性』を適宜発行する。 ・担任との面談を通して、自分の将来について考える機会を増やす。	B	B	B	第1回58%、第2回71%の生徒が自ら進路情報を得ようとしていると答えている。進路を具体的に伝えられるように、個別面談を繰り返すし、1学年より卒業後の進路について理解させる。また、学期ごとに進路部長の講話、外部講師の講演会なども実施し、生徒のキャリア形成の一助とする。	○担任面談などの個別指導を今後も期待したい。
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯自分の適性を理解して、進路実現に向けて取り組んでいる生徒が90%以上である。 ⑰アルバイトを含め就業している生徒が90%以上である。	・年2回進路希望調査を実施し、担任を中心とした面談の中で自らの職業適性を見いだす。 ・オープンキャンパス等に積極的に参加させることで、希望に合った進路選択につなげる。 ・学校卒業時間までの有効活用と生活習慣の確立、さらに社会経験を積ませるといった観点から就業を積極的に勧める。また、就業先での悩みなどを気軽に教員に相談できる体制を整える。	B	B	B	進路実現に向けて取り組んでいる生徒は第1回83%、第2回87%であった。学校生活（授業・行事）が進路実現につながることを理解させ、主体的な行動を促す。また、開校記念講演会において、若い定時制卒業生に講師を依頼することで、卒業後の社会生活をイメージさせる。 アルバイトを含め就業している生徒は第1回48%、第2回54%であった。就業体験は社会性育成の良い機会であり、勤めているところがあるが、就業後、疲労や欠席が増える生徒もいる。学業に支障がないよう自ら時間・生活習慣を管理し、両立できるよう指導していく。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱家庭への通知で適切な情報が提供され、学校の様子がよくわかると保護者の100%が回答している。 ⑳学校新聞を学期に1回以上発行し、かつWEBページを月に1回以上更新している。	・学期に1回以上の学校新聞の発行、学校公開、各行事等の案内配布を行い、生徒を通して保護者へ確実に通知が届くようにする。 ・学校行事等では個人情報に注意をはらいながら、写真や映像を記録として残し、WEBページの更新や学校新聞の素材として活用する。	A	A	A	保護者調査において、本校の教育活動について理解していると答えた割合は第1回89%、第2回100%であった。引き続き学校新聞や本校HPなどで情報を発信し、保護者との連携を密に取っていききたい。	○学校新聞の発行は時間がかかると思うが、価値がある。
		11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ICT機器を使った授業が80%以上である。	・ICTを積極的に取り入れることで、授業への関心を高める。また、教員相互でICT活用について情報交換、技術提供を促進し、生徒の理解、意欲向上につながる教材づくりにつなげる。	B	—	B	学校新聞を読んだ保護者は第1回、第2回ともに100%であった。これまでも動送していたが、学校への関心が高い保護者が多くなったと考えられる。WEBページについては掲載内容を充実し、地域社会へ情報発信している。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒資料はデジタルデータで共有化し、職員会議や打合せの紙面資料の配付は1週1回以上している。	・会議、打合せはKinakoを活用することで連絡、資料の共有を図る。 ・ペーパーレス化を推進し、紙面資料の配付は必要最小限に抑える。	A	—	A	教職員相互の授業観察会を通して授業改善の機会を増やしたい。ICT機器を活用することで生徒の意欲・理解が向上できるよう引き続き教材を充実させたい。教職員へのアンケートを実施し、結果をもとに、さらなるICT機器活用を促したい。 「Kinako」を活用によりペーパーレス化は実現できた。生徒への緊急連絡も「classroom」で対応している。今後もシステムを活用し、経費削減・職員の負担軽減を推進していく。	○ICTの活用については、生徒の中に対応できない人もおられると思う。生徒それぞれの実態に合わせた配慮や指導をお願いしたい。